

八戸市魚市場運営審議会 会議録

日 時：平成 22 年 1 月 26 日（火）午後 4 時 30 分
場 所：八戸グランドホテル 1 階マリンホール

○司 会 お待たせいたしました。私、本日の司会進行を務めます、水産振興課の山道でございます。よろしくお願いいたします。

ただ今から八戸市魚市場運営審議会に先立ちまして、この度委員をお引き受けいただきました皆さまに委嘱状の交付を行わせていただきます。なお、本日は熊谷拓治様、川村嘉朗様、宇部重雄様は所用により欠席される旨の連絡がありましたのでご報告いたします。市長には委嘱される方の席で交付をお願いいたします。委嘱される方には、大変恐縮ではございますが、その場でご起立をお願いいたします。

（市長は席を立ち、委員の席の方へ）

それでは、服部昭様。

○市 長 委嘱状、服部昭様。八戸市魚市場運営審議会委員を委嘱します。期間、平成 22 年 1 月 26 日から平成 23 年 12 月 31 日までとします。平成 22 年 1 月 26 日、八戸市長、小林眞。

○司 会 小嶋誠一様。

○市 長 委嘱状、小嶋誠一様。以下同文。

○司 会 大矢卓様。

○市 長 委嘱状、大矢卓様。以下同文。

○司 会 林恭子様。

○市 長 委嘱状、林恭子様。以下同文。

○司 会 福田まり子様。

○市 長 委嘱状、福田まり子様。以下同文。

○司 会 橋本敏子様。

○市 長 委嘱状、橋本敏子様。以下同文。

○司 会 大島一男様。

○市 長 委嘱状、大島一男様。以下同文。

○司 会 福島哲男様。

○市 長 委嘱状、福島哲男様。以下同文。

○司 会 榊佳弘様。

○市 長 委嘱状、榊佳弘様。以下同文。

○司 会 地主陽一様。

○市 長 委嘱状、地主陽一様。以下同文。

○司 会 河村喜久雄様。

○市 長 委嘱状、河村喜久雄様。以下同文。

○司 会 神子沢一夫様。

○市 長 委嘱状、神子沢一夫様。以下同文。

(市長は席へ戻る)

○司 会 これをもちまして委嘱状の交付を終わります。

それでは、ただ今から八戸市魚市場運営審議会を開催いたします。はじめに、開設者であります、小林市長からご挨拶を申し上げます。

○市 長 それでは一言ご挨拶を申し上げます。大変お忙しい中、ご出席を賜り、本当にありがとうございます。また、この度は、八戸市魚市場運営審議会の委員を快くお引き受けいただき、厚く御礼を申し上げます。本日は任期満了により、委員委嘱後最初の審議会ということから、正副会長をご選任いただき、その後に昨年度実績等について報告をさせていただきます。

現在、わが国の漁業・水産業を取り巻く環境は漁業就業者数の減少、若い世代を中心とした急速な魚離れなど、大変厳しいものがございます。八戸港におきましても、海外いかの水揚量の減少、魚価の低迷、さらに大型クラゲによる漁業被害など、厳しい現状ではございますが、昨年はハサップ対応型魚市場の整備内容につきまして、八戸漁港検討会議において最終的な合意をいただきました。今年4月には、新魚市場の着工に向けて、いよいよ事業が目に見える形で動き出すこととなります。また、漁船漁業構造改革事業におきましては、大中型巻き網と小型底引き網の改革型漁船の導入計画が新たに提案されるなど、生産流通の効率化や水産物のブランド化、高付加価値化に向けた取り組みが着実に進んできています。今後とも官民一体となり、水産業の振興に積極的に取り組み、この厳しい状況に取り組んでまいりたいと考えております。どうか委員の皆さまには、魚市場の公正且つ円滑な運営のため、ひいては当市の水産業発展のため忌憚のないご意見をいただきますとともに、魚市場の運営にご理解をいただき、ご協力を賜りますようお願いを申し上げ、簡単ではありますがご挨拶といたします。どうぞよろしく願いをいたします。

○司 会 ありがとうございます。それでは早速ですが、審議に入らせていただきます。

審議会規則第3条第3項及び第4条第1項の規定により、新たに委員の委嘱が行われた後、最初に招集すべき審議会の会長の職務は市長が行うとともに、会議の議長を務めることとなっておりますことから、市長には議長席に移っていただきまして、議事進行をお願いいたします。

(市長は議長席へ)

○市 長 それでは暫時、議事進行を務めさせていただきます。

次第に従いまして、これより会長及び副会長の選出を行いたいと思います。会長及び副会長は、審議会第3条第2項の規定により、委員の互選によって定めるとございますが、いかが取り扱いますかお諮りいたします。

(河村委員から「はい」と言う声あり)

○市 長 はい、河村委員。

○委員 大変ご苦勞をお掛けすると思いますが、会長は長年にわたり審議会に携わっていらした服部委員に、副会長は八戸市議会代表であります大島委員にお願いしたいと思います。

○市長 はい、ありがとうございます。ただ今河村委員から、会長は服部委員、副会長は大島委員にという推薦のご発言がございましたが、このことにつきましてそのように決定することにご異議がございませんか。

〔異議なし〕と呼ぶ者あり

○市長 はい、ありがとうございます。ご異議ないようですので、それでは会長は服部昭委員、副会長は大島一男委員にお願いすることに決定をいたしました。服部会長、大島福会長には大変ご面倒をおかけすると思いますが、よろしくお願ひいたします。以上で、私の任務は終了いたしました。ご協力ありがとうございました。

○司会 ありがとうございます。会長、副会長が選出されましたので、市長には元の席へお戻りいただきます。

(市長は元の席へ)

○司会 早速ですが、服部会長には、会長の席にお移りいただきまして、ご挨拶をいただきたいと思います。

(会長は席を移動し、挨拶)

○会長 服部です、よろしくお願ひいたします。言うまでもなく魚市場というのは、社会的に大きな役割を担っております。特に八戸の場合には特三漁港ということで、全国13港ある中の1つの港ということの位置付けを持っております。そういう意味ではこの運営審議会、大きな役割を持っているということが言えると思います。その意味では、どうぞ忌憚ないご意見をいただきながら、一方でご協力をいただきながら審議を進めていければというように思っておりますので、よろしくお願ひをいたします。

○司会 引き続きまして、服部会長には会議の進行をお願ひいたします。

○会長 それでは、今回、先ほど市長のご挨拶にもありましたように、初めての審議会ということになります。以前にこういうことはやったことがないのですけれども、どうでしょうか、新しい委員も加わっておりますので、自己紹介というようなことから進めていければというように思います。まずは、大島一男さんからお願いします。

(各委員、順次挨拶)

○副会長 どうも皆さん、こんにちは。先ほど副会長に選任ありがとうございました。私はずっと総務におりまして、初めて、3期目にして常任委員会を出ました。私の出身は尻内の山根でございますので、今でもいか刺しに酢をかけて食べています。そういう海のごことは、素人ですが、メンバーを見ましたら素晴らしい方々がおいでになりますので、今八戸の港が大きく変わろう、漁港が大きく変わろう、魚市場が大きく変わろう、そういうときにこういう委員になりましたこと光栄に思いながら頑張ります。よろしくお願ひいたします。

○会長 ありがとうございます。それでは福島委員。

○福島委員 福島でございます。鮫町に生まれ育ち、今日までまもなく69年を迎えようとし

ています。まだ、70手前ですけれども、どっぷり浜の方で、水産に浸かってまいりましたので、今大島さんのお話を伺って、あまり浸かりすぎたためにしょっぱくなっているのかなという感じもしないわけではありません。よろしくひとつお願いいたします。

○会 長 それでは榊委員。

○榊委員 引き続き委員に選ばれました榊です。仲買人連合会代表ですので、魚のことは多少分かっていると思うのですが、なかなかいろんな問題が山積みですので、この委員会でいろいろ議論しながらやっていきたいなというふうに思います。皆さんよろしくお願いいたします。

○会 長 ありがとうございます。それでは地主委員。

○地主委員 マルヨさんと同じく水産加工会社をやっております。あまり実績もぱっとしませんけども、少しまじめに出席したいと思いますので、よろしく申し上げます。

○会 長 河村委員。

○河村委員 河村です、よろしく申し上げます。私も今回で3回目の委嘱状をいただきました。その3回とも市長さんからいただいておまして、まだまだ勉強不足の面もありますけれども、皆さんよろしくお願ひしたいと思います。

○会 長 それでは神子沢委員。

○神子沢委員 魚市場の神子沢と申します。私は昭和44年にこの会社に入りまして、ちょうど今年で還暦を迎えます。そういう年になりました。これからもひとつ、いろいろとご指導をよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

○会 長 ありがとうございます。引続き橋本委員、お願ひします。

○橋本委員 ただ今、街の真ん中、中心市街地に住んでおまして、魚とは縁があるような感じですが、1人の主婦として、やはり魚市場が八戸市における位置付けと、やはり隆盛になってほしいという思いでこの委員に応募しておりますので、よろしくお願ひいたします。

○会 長 ありがとうございます。続いて福田委員、お願ひします。

○福田委員 福田まり子と申します。私も鮫町で魚市場のすぐそばに自宅もありまして、福島委員と同じくかなり潮風にもまれながら、主婦の立場で魚、魚市場のことを考えて、皆さんと意見を交わしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○会 長 ありがとうございます。それでは林委員、お願ひします。

○林委員 林学園の林でございます。しばらくこの委員をさせていただいておまして、お役に立っているのかどうなのか、内心忸怩たるところはありますけれども、一生懸命頑張りたいと思ひます。私は実は毎日毎日、明けても暮れても食べ物のこととか、食材のこととか、そればかりを仕事にして考えております。気がついてみますと、八戸と地域は何とも海の幸、山の幸に恵まれた食材の宝庫であります。ですからいち早く発見し、新たな形に、そして発信力のある生徒たちを育てたいと思ひながら、今毎日励んでおります。何らかのことでお役に立ちたいと思ひますので、どうぞまたよろしくお願ひ申し上げます。

○会 長 ありがとうございます。それでは大矢委員、お願ひします。

○大矢委員 八戸港湾運送、大矢です。一般港湾の方の専門になっておまして、どちらか

という漁港の方は全くど素人ですけれども、いろいろ勉強させてもらいながら、何とかお役に立てるように頑張っていきたいと思えます。よろしくお願いします。

○会 長 ありがとうございます。それでは小嶋委員。

○小嶋委員 商工会議所の小嶋でございます。前回に引き続いての委員の委嘱をいただきました。会議所の立場では、いろんな業界の振興ということをやっておりますが、私は生まれもそうなのですが、実は住んでいるところもそうなのですが白銀です。浜には大分縁があるなというふうな感じでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○会 長 私は早いもので、八戸に来て25年になります。非常に短いという印象を持ったのですが、もともと最初、漁船の労働から入りまして、この福島委員の惣宝丸にも実は水産庁の仕事で乗せていただいた、まき網船ですが。という繋がりを持っております。そういう意味ではこれからはいろいろと、この場でフランクに議論ができればというように思っておりますので、よろしくお願いいたします。

どうもありがとうございました。それでは続きまして、理事者職員のご紹介をお願いしたいと思うのですが。

(部長が職員を紹介、所長から順次)

○部 長 産業振興部長の高谷と申します。よろしくお願いいたします。先ほど林委員からもお話があったのですが、まず子供たちの魚離れとか、その若い親たちも魚の調理を知らないとか、ここから修正とか、していかなければならないかなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

水産事務所所長。

○所 長 工藤でございます。引き続き皆さまにはお世話になりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○部 長 副所長。

○副所長 熊谷と申します。いつも委員の皆さまにはお世話になっております。よろしくお願いいたします。

○部 長 副参事の山道です。

○職 員 山道と申します。またよろしくお願いいたします。

○部 長 主査の加藤です。

○職 員 加藤と申します、よろしくお願いいたします。

○部 長 担当の橋本です。

○職 員 橋本と申します、よろしくお願いいたします。

○部 長 どうぞよろしくお願いいたします。

○会 長 どうもありがとうございました。それでは審議会の次第の方に戻りまして進めていきたいと思えます。まずは報告事項の第1番目、平成21年八戸市魚市場水揚実績報告について、事務局からお願いできますか。

○事務局 それでは平成21年八戸市魚市場水揚実績についてご報告を申し上げます。お手元の資料の1ページをお開き願います。水揚数量では前年比107%、13万9,275トンで、9,628トンの増でありました。水揚金額では前年比93%、216億9,411万円で、16億901万円の

減でありました。

次に2ページをお開き願います。漁業別にご説明をいたします。いかつり漁業は、船凍アカイカ、ニュージーランドイカがやや低調でしたが、八戸近海のスルメイカ、ペルーのアカイカの順調な水揚げにより、数量は前年比106%、53,333トンで、3,165トンの増となりました。金額は前年比96%、105億4,002万6千円で、3億9575万2千円の減益となりました。

次に大中型巻き網漁業ですが、さば、スルメイカ等が順調に水揚げされたことから、数量は前年比116%、52,212トンで、7,068トンの増となりました。金額は前年比100%、41億3,147万6千円で、1,581万5千円の減となりました。機船底びき網漁業は、数量は前年比110%、24,504トンで、2,127トンの増となり、金額は前年比90%、47億990万6千円で、5億4,410万2千円の減となっております。

平成21年のまとめといたしまして、数量においては八戸前沖のスルメイカの豊漁により、前年を上回りました。金額につきましては、ペルーのアカイカをはじめ、全般的に魚価が低下したことにより、前年を下回っております。

次に3ページをお開き願います。平成21年全国主要市場水揚表であります。八戸港は、数量は昨年の6位から3位に、金額は昨年の9位から7位となりました。全国的な景気低迷による魚価安により、金額について全ての市場において前年を下回っているなど、水産業を取り巻く環境は依然厳しい状況であります。以上で報告を終わります。

○会長 ありがとうございます。ただ今の説明について、ご意見あるいはご質問ありましたらお願いをしたいと思います。

(発言なし)

○会長 それでは、ないようでしたら、後でまた別な機会のときにご質問をしていただく、あるいはご意見をいただいても結構かと思っておりますので、報告事項の2番目、平成20年度市場別収支概況についてということでお願いします。

○事務局 それでは平成20年度市場別収支概況についてご説明を申し上げます。お手元の資料の平成20年度市場別収支概況をご覧ください。資料につきましては、1として、魚市場運営に直接的に関わるもので、市場使用料等の収入や光熱水費等の支出などの収支、2番として魚市場運営に間接的に関わるもので、繰越金等の収入や人件費等の支出などの収支、3番として水産会館運営に係る収支、以上3つに区分して作成しております。市場別の収支概況作成に当たりましては、魚市場運営に直接的に関わる収支については市場別に数値を振り分けることができましたが、間接的収支につきましては、市場別に数値を振り分けることが難しいため、便宜上直接的収支の歳出合計額をベースにして案分して作成しております。ご了承いただきたいと思います。

それでは資料の1ページ、魚市場運営に係る収支についてご説明を申し上げます。まず、第一魚市場ですが、歳入の計2,256万1千円、歳出計2,556万3千円、収支差はマイナスの300万2千円でございます。

次に第二魚市場ですが、歳入計3,111万2千円、歳出計2,781万1千円、収支差はプラスの330万1千円でございます。

次に第三魚市場ですが、歳入計3,564万円、歳出計3,905万6千円、収支差マイナスの341万6千円でございます。

収支の現状ですが、第一魚市場と第三魚市場が収入を支出が上回る、いわゆる赤字の状況、第二魚市場は黒字の状況であります。

次に2番目の魚市場運営その他の収支についてですが、市場収支の現状をそのまま数値で皆さまへお知らせしたいという考えから、表中からは歳入の一般会計繰入金を除かせていただきました。合計値でお知らせをいたします。歳入計2,113万1千円。歳出計1億3,308万円、収支差マイナスの1億1,194万9千円でございます。

2ページをお開き願います。1~2の表の合計ですが、直接的収支と間接的収支の合計、一般会計からの繰入金を計上しない、魚市場の現状を表す合計値の表でございます。歳入の計1億1,044万4千円、歳出計2億2,551万円、収支差はマイナスの1億1,506万6千円でございます。

次に3として、水産会館運営に係る収支でございます。歳入計1,390万3千円、歳出の計4,069万4千円、収支差はマイナスの2,679万1千円でございます。

最後に1から3の合計、魚市場と水産会館の収支の合計値ですが、歳入計1億2,434万7千円、歳出計2億6,620万4千円、収支差マイナスの1億4,185万7千円でございます。魚市場の収支差マイナス1億1,506万6千円に、水産会館の収支差マイナス2,679万1千円を上乗せた収支差の合計値はマイナス1億4,185万7千円を、表の下から2行目の一般会計繰入金1億4,467万6千円で補い、魚市場特別会計を賄っている状況であります。

市といたしましては、水揚金額の増加を期待するとともに、魚市場の維持管理に掛かる費用をできるだけ抑え、経費節減に努め、施設の効率的な活用を心がけ、一般会計からの繰入金をできるだけ増やさないよう努めてまいりたいと考えております。以上で説明を終わらせていただきます。

- 会 長 はい、ありがとうございました。ただ今、ご説明がありました内容につきまして、ご意見あるいはご質問等がありましたらお願いをしたいと思います。
- 福島委員 ちょっと今のことについて聞きますけれども、なるべく赤字が出ないようにするのは当たり前だけれども、具体的にはどういうふうなことを取り入れれば赤字が出ないような方向に持っていけるかということがあったら教えてください。
- 事務局 事務的に今私どもがやっているのは人件費の抑制ということで、市職員退職不補充、いわゆる退職した職員の代わりに委託契約をして、業者から、特に今やっているのは監視業務の方なのですけれども、現在は2名、退職者の代わりに、いわゆる派遣会社から派遣を受けて、委託料として扱っているというのがあります。現在8名監視員がおるのですが、人事課と話をして、約半数程度はそういうことで経費を節減していこうということで、今進めておるのが1つでございます。

それから水産会館の方ですけれども、指定管理者制度、いわゆる今までは直接市が管理しておりましたけれども、そういうことで水産会館の方の経費も削減しようということでやっておりました。大きな経費削減ということになりますと、今ある第一、第二、第三という魚市場を三魚市場に集約をするということで、これは今後でないとも効果が現れないと

思いますけれども、大きな意味ではそういう方向性を持って進めたいと思っております。
以上です。

○福島委員 もう1つ。先ほど、この金額と数量の扱い順位、ずっと見ていると、特に金額においては1番から10番までほとんど前年対比100というのはない。八十何%とかありますけれども。要するに、私は数量で扱いを増やすということは、いろんなそれに関わる諸経費も出てくると思うので、やはりがさで稼ぐというのではなくて、懐に入る銭で稼ぐというようなことの方がプラスに転じやすいのではないかなと思うのですが、それで今日は両市場から常務とか専務が来ていますけれども、昭和48年に市場が2つになって、今現在卸売2つで市が管理してやっているのですが、これについて、そうすればこのまま2つでやって、卸売をです、いいのか、あるいは見直すべきなのかというような、48年のときには私も先ほど自己紹介で挨拶したように、どっぷり浜に浸かっていますから、もう既に現場にも出て、まあペーパーだったけれども、やってきたのです。あの頃は猫の手も借りたいくらい物も搬入があったものだから、3つも市場があってもよかったのかなというようなことも思ったわけですが、今はだんだん扱う数量も減ってきているし、いろんな意味で金額的なものも落ちてきているので、市とすれば今後ある2つの市場、卸売をどのように考えているのかちょっと聞きたいのです。全く考えていないのか。2つの卸売市場でそれは検討すればいいのだと、自分たちに関係する話ではないのだというふうに思っているのか。ちょっと聞かせてください。

○事務局 すみません、担当から。今、市の方では魚市場の集約ということで、おかげさまで水産庁の補助に取り上げていただきまして、施設の集約と整備の方はスタートが切れるというところまで、やっと皆さまのおかげで取り付くことができおりました。これは場所とか取り扱いの設備等々の資金、資材を市の方で取得をするという形で今進めておりますので、これが進行いたしますと、1つの市の施設を両卸売で使っていただけるという意味では、これまで卸さんがそれぞれいろんな設備をお持ちになっているということには1歩、集約が進むかというところが現状で今考えているものです。今後の卸さんの問題でございますが、これはやはり当事者間のそれぞれの組織でのご検討から進めていただければありがたいというふうに考えていました。

○福島委員 そうするとあれか、今の話だと、あなた方が両方で相談しなさいと、私は外から見学しますよと、こういうことなんですか。

○事務局 決してそういうことではなくて。

○福島委員 何かそのように聞こえるから。

○事務局 八戸港の問題でございますので、これまで漁港検討会議等で、皆さんでご協議いただいたものと同様に、今後関係者一丸となってお相談できれば大変ありがたいというふうには考えておりました。

○福島委員 そうすると、これから話をするのかしないのか、今トップは来ていないから、専務とか常務だから。もしそういうふうな話ができ、環境づくりができてくれば、市の方もそれに指導的立場というわけではないけれども、話し合いの中に入っていてもいいというようなことも考えているわけですか。

○事務局 そうですね。開設者も、県知事の方から許可をいただいております、卸売業者さんもそれぞれ県知事の方から許可をいただいて、3者が協議しながら市場を運営しているというのが現状の形であろうと理解しておりましたので、これは皆さん平等に同じテーブルで話し合いを進めるべきであろうかなというふうに考えています。県のご指導もいただく必要があろうかなというふうにも考えます。以上です。

○福島委員 実は、ここに加工連も仲買の会長さんもいますけれども、この度仲買人の組織を一本化しようということで、とりあえず3つあったものを2つにすることにしたわけです。だから3つあるものを2つにしたから、あと1つまとまるだけ。もう連合会ではなくて、協同組合になるわけね。

もう1つは、会長は両方兼ねていますから、仲買人連合会と加工連合会と2つ兼ねていますから。この加工連合会についても、私もこの間まで会長をやっていたわけですがけれども、私がやっている時代から何とかしてこれを、仲買人の資格を持った人も加工業者だしね、同じ人が同じことをやっているのだから、何も組織なんか必要ないのではないかと。振り返ってみると、これも昭和40年代のころから、要するに産めや増やせやの生産量が上がったときに、このような組織をつくっていかねば対応できないというようなことでつくってきたわけです。だから加工連にはかつては冷凍庫もあり、製氷工場もあり、ミール工場もあったものを皆無くしたわけです。必要がなくなったから、時代と共に。だからやはり時代と共に変化するわけだから、そういう意味では今仲買人連合の会長さんが、とりあえず仲買人の組織を1つにしましょうということで今向かっているわけ。だから、そういう意味で魚市場も、卸売も時代と共にやはり変わっていてもいいのではないかと。これから200海里が施行されてきた前みたいに、どんどん生産量が伸びていくというのであれば、これは何も2つでもいいと思うのです。ただ、これからはそんなことがないだろうと、国はタック制度を敷いて、いろんな魚種を絞って絞って、あまり生産を増やさないうで自給率を上げましょうと、それは食の問題。さっき林さんが言っていましたけれども。どういうふうに口に入る食に仕立てるかというふうなことを、今盛んに取り上げてやっているわけだから。食べるものは減る、食べるものはやはりそれなりに食べやすいような、そして食べてもらえるような製品化していくというようなことにも、これちょっと下の方の話だけれども繋がっていくわけだから、ひとつ市でも、何だか所長の話の話を聞いていると逃げ腰みたいに見える。

○市長 ここには当事者がいるので、言いにくいと。

○福島委員 そういうことです。

○会長 その他ございませんか。

○神子沢委員 ちょっといいですか。その他の部分で。

○会長 その他の部分で。結構です、はい、どうぞ。

○神子沢委員 1つお願いします。先日雪がどかっと降りましてですね、水揚げ岸壁を確保するのにちょっと大変なことがありました。そういう意味で、速やかに除雪そういったものにも対応していただきたい。そういうお願いであります。特に小中野の場合ですと、上屋だけじゃなくてずっと丸吉さん、あるいはマル仲さんの方まで船が着きますので、そう

いう方面まで除雪というものをしてもらいということのお願いであります。以上です。

○会 長 その他ございますか。はい、どうぞ。

○河村委員 今の話と関連するのですが、実は昨日も卸売の方が出て、朝、見てましたら、大分水揚げがありまして、結局荷を上げる場所が小中野の市場が大分狭いというような話がちょっとありまして、資材とかいろいろ置いている場所も含めてですね、もうちょっと確保できないかなという話もちらっと出ていましたので、その辺をちょっと検討いただければということです。よろしく申し上げます。

○会 長 そのほかないようでしたら、これをもちまして本日の八戸市魚市場運営審議会を終了したいと思います。どうもありがとうございました。それでは事務局の方にお返しします。

○事務局 大変ありがとうございました。これを本日の八戸市魚市場運営審議会を閉会させていただきます。引き続き、懇談会に入りたいと思います。会場は当会場の隣に用意しておりますので、お手数ですがお手持ちの書類等をお持ちくださいますようお願い申し上げます。